

【熊本 SJCD 例会抄録】

演題：前歯部反対咬合のとらえ方、考え方

～あなたとあなたの大切な患者さんを不幸にさせないために～

演 者：池上富雄

日 付：2008年2月26日

Keywords

1. 長期治療計画
2. 下顎前突
3. 骨格性反対咬合
4. 機能性反対咬合

抄 録

私は1984年に開業し、今年で開業24年になります。この間に約3,300名の患者さんの矯正治療に携わってきました。大部分のケースは大過なく治療を終了することが出来ましたが中には自分の未熟さから今思い出しても心が痛むケースも経験しました。特に小児の矯正患者で多く見られる前歯部の反対咬合は正常咬合とは大きく異なる外見の故に視認されやすく、父兄の治療に対する関心も高く、矯正相談で歯科の診療所を訪れるケースが多い症例です。この前歯部反対咬合には大きく分けて、骨格性と呼ばれるものと機能性と呼ばれるものがあり、前者は治療が難しく、長期にわたり、予後も不良とされ、後者は比較的治療が容易で、短期間に改善が可能で予後も良好とされています。このような異なるタイプの前歯部反対咬合を簡単に見分けるにはどうしたらいいのか、また、前歯部反対咬合の治療に取り組む際にはどのようなことに気をつけるべきか等について私の現在までに経験した失敗例を交えて、なぜ失敗したのか、その原因を追及し、失敗を防ぐためにはどうしたらいいのか、どのような手段があるのかという事を皆さんと一緒に考えてみたいと思います。私のつたない経験が会員諸兄の明日からの診療に何らかのお役に立ち、一人でも不幸な先生と不幸な患者さんを減らすことができれば幸いです。

「愚者は自らの経験からしか学ばず、賢者は他人の経験からも学ぶ。」